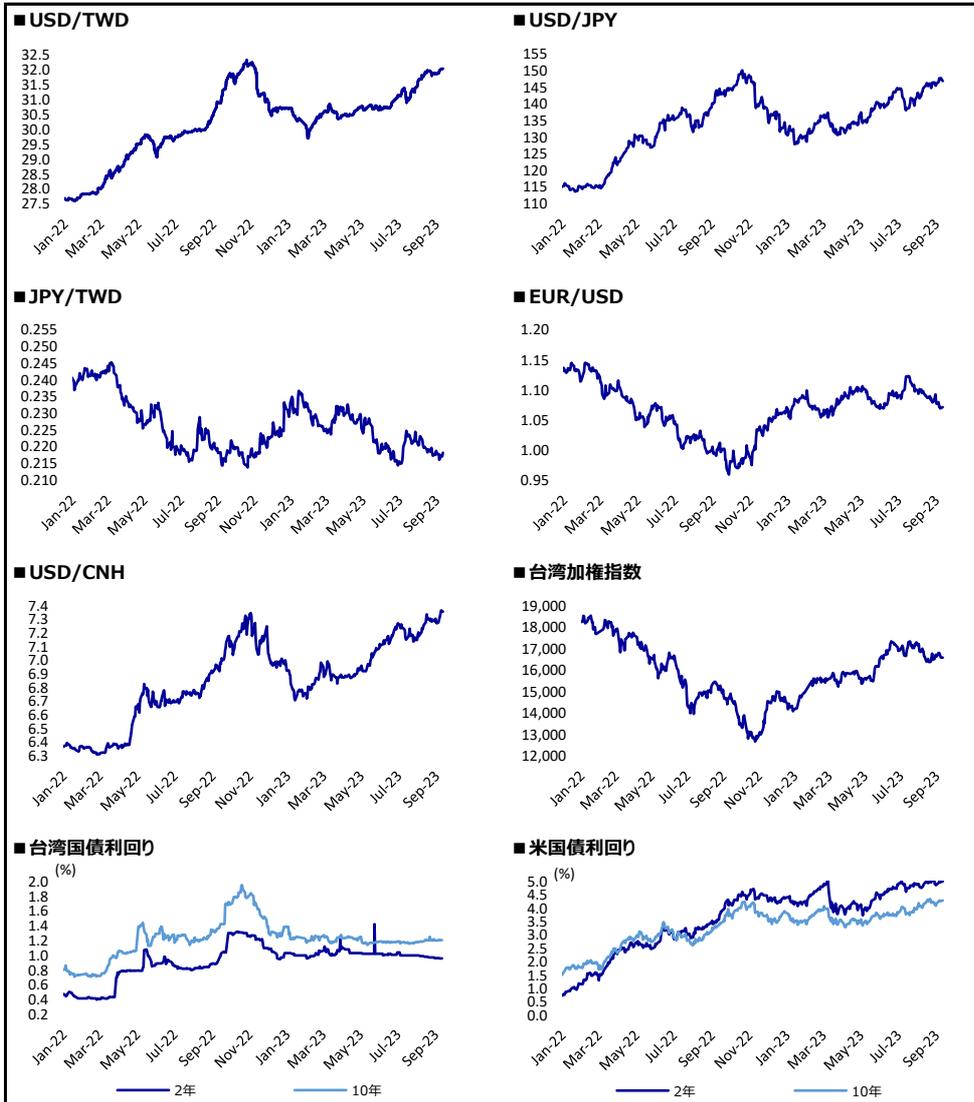


## 市場動向



## 先週の市場動向

■ USD/TWD  
先週のドル/台湾ドルは上昇し、約10か月ぶりに32台に。週初9/4は31.880でオープン。米国休場で外資系の送金が少なかったことや、台湾の中南部が台風休暇となったため、動意に乏しい展開となり、終始、31.88付近での狭いレンジで推移した。9/5は人民元安を受けて31.9台に上昇するものの、この水準では輸出企業等からドル売りが入り上値は押さえられた。9/6は米金利の上昇や台湾株安を背景に31.9台後半まで上昇したものの、輸出企業等からのドル売りも入り、32台には乗せなかった。9/7も米金利の上昇や台湾株安を背景に台湾ドルが売られるとじりじりと上昇し、一時、約10か月ぶりに32台に乗せた。9/8は台湾株の下落と共に台湾ドルは売られ、一時32.052まで上昇。輸入企業からもドルを急いで買う動きが見られ、上昇圧力は強かったものの、輸出企業等からもドル売りが積極的に入り、売り買い交錯し、32.04付近の狭いレンジで推移。引け前には調整も入り、最終的には先週比0.5%ドル高台湾ドル安の32.008で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は369.7億台湾ドル。

■ USD/JPY  
先週のドル/円は上昇し、年初来高値を更新し続けた。週初9/4は146.15でオープン後、米国休場で材料に乏しい中、狭いレンジでの推移が続いたが、日米金利差が意識されたか、146円台半ばまで上昇。9/5は五・十日の実需のドル買いや米金利の上昇を受けて147円台半ばまで上昇。その後、ウォラーFRB理事からのハト派発言を受けて、一時売りで反応したものの、米7月製造業受注(前月比)が予想より改善し、ドル買いが優勢となり、147円台後半まで上昇。9/6は神田財務官からの円安けん制発言を受けて一時下落したものの、長続きせず、147円台後半で推移。しかし、米金利が低下すると147円台前半まで反落。その後も同水準で推移していたが、米8月ISM非製造業景気指数が予想より良好な内容であったことを受け、147円台後半に戻した。9/7には147.87まで続伸し、年初来高値を更新。しかし、その後は日本株の軟調推移や米金利低下を受け147円台半ばに反落。米新規失業保険申請件数の強い結果を背景に147円台後半に上昇する場面もあったが、米金利が低下基調を続けたこともあり147円台前半に下落した。9/8は鈴木財務官の円安けん制発言もあり、一時146.60まで下落したものの、その後は徐々に147円台へ持ち直した。最終的に先週比1.07%ドル高円安の147.84で先週の取引を終了。

## 今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：31.900-32.200  
今週は上昇を見込む。先週金曜日に約10か月ぶりに32台で終了。今週後半に発表予定の米CPI、PPIの結果を控えて、ドルが買われやすいであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：145.50-148.50  
今週は底堅く推移すると見込む。先週金曜日に日本当局からの円安けん制発言があったものの、効果は大きくないことが確認された。依然として米インフレへの警戒感が高く、高値圏で推移する展開となるか。

## 今週の予定

9/11 (MON)	
9/12 (TUE)	
9/13 (WED)	米8月CPI
9/14 (THU)	ECB理事会、米8月小売売上高、米8月PPI
9/15 (FRI)	米8月鉱工業生産、米8月ミシガン大消費者信頼感指数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。